

## 特異火災原因事例シリーズ

12

車両の前照灯（ハロゲンバルブ）の  
取り付け不良による出火事例

## 名古屋市消防局

## 1 はじめに

本邦の自動車整備の売上高は景気動向に左右されるという調査結果がある。

簡単な整備作業ほど特別な知識がなくても行える反面、少しのミスでも火災や事故につながる可能性がある。前照灯のバルブ交換もその1つとして挙げることができる。

本火災は普通乗用車（国産車）の前照灯の取り付け不良で走行中に火災に至ったと推定される事案を紹介する。

## 2 火災概要

- (1) 出火日時 平成25年5月19時25分頃
- (2) 発生場所 名古屋市 高速道路トンネル内
- (3) 気象状況 天候 晴れ 気温 21℃
- (4) 死傷者 なし
- (5) 覚知時間 19時29分
- (6) 鎮火時間 19時42分

## 3 火災発生時の状況

運転手は19時頃に名古屋市内にある勤務先の駐車場を出発し、一般道を走行後高速道路に入った。高速道路では50～60km/hの速度で走行していた。

トンネル内に入って走行車線を走行中に追い越し車線の車両運転手が手で合図をしているのに気付いた。窓を開けて顔を少し外に出したところ、車両のフロント部分から煙が出ているのに気づき路肩へ車両を停車させた。車両から降りてフロント部分を確認していると突然火炎が上がったので車両から離れ避難した（写真1～4参照）。

## 4 初期消火の状況

初期消火は火災現場付近をパトロールカーで巡回中であ



写真1 車両の前方

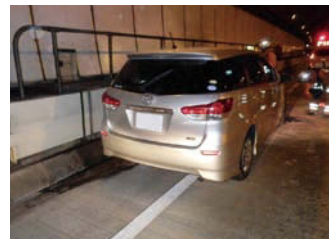


写真2 車両の後方



写真3 車両の右側面



写真4 車両の右フロント部分

った高速道路公社（以下「公社」という。）の職員が実施している。公社職員が路肩に停車中の車両を運転手と共に確認していた時、高さ約1mの火炎が上がったため、パトロールカー積載の消火器4本とトンネル内備え付けの消火器4本の計8本で消火活動を実施した。消火器による初期消火後に、公社管制センターからの遠隔操作により作動させたトンネル内のスプリンクラーによる放水が行われた。

## 5 車両の状況

- (1) 初年度登録 平成22年7月
- (2) 走行距離 176,631km（最終確認時の距離）
- (3) リコール 届出なし
- (4) 車両の使用状況

1日の走行距離は200～300kmであり、週に5日使用している。3年契約のリース車両であり、当日使用していた運転手以外に車両を使用することはない。

- (5) 整備状況

エンジンオイルはガソリンスタンドで走行距離5,000km毎に交換し、オイルエレメントについても走行距離10,000km毎に交換している。最終オイル交換は平成25年4月末に

実施している。

リース契約先の自動車販売店においてブレーキパットやタイヤ交換は行っているが、その他の部品交換、整備は行っていない。

## 6 実況見分

自動車メーカー（以下「メーカー」という。）及び自動車販売店（以下「販売店」という。）の協力を得て、同型車と比較しての火災原因調査を実施した。

車両の焼きはエンジンルーム及びその周辺のみであり、車内及びエンジンルームより後部に焼きは認められなかった。車両前部を中心に見分を行ったところ、運転席側（右側）前照灯及びエンジンルーム右側に強い焼きが認められた。

エンジンルーム内の樹脂製部品も運転席側は焼失しているものが多く認められたが、エンジンルーム中心部に位置するエンジン本体部分は樹脂製カバーが溶融変形しているのみであり、助手席側に設置されたヒューズボックスは蓋のみが溶融変形していた。また、バッテリーは端子部分の



写真5 同型車のエンジンルームの内部



写真6 り災車両のエンジンルーム内



写真7 バッテリー



写真8 ヒューズボックス

カバーが一部溶融している程度であり、バッテリー本体に焼きは認められなかった（写真5～8参照）。

## 7 運転席側（右側）前照灯

運転席側の前照灯は焼きが強く、一部分を残して焼失し脱落している（写真9、10参照）。



写真9 運転席側前照灯



写真10 前照灯、前照灯周辺部の脱落部分

前照灯付近の脱落部分からはハイビームのリフレクタ部分及びウオッシャー液のモーターが確認できたのみであり、ロービームバルブの部品類は認められなかった。

## 8 助手席側（左側）前照灯の状態

助手席側前照灯を車両前方から見分するも焼きや変形は認められなかった（写真11参照）。



写真11 助手席側前照灯

エンジンルーム側から前照灯の状態を見分すると、ハイビーム、方向指示灯、車幅灯のバルブは正しい位置に装着されていたが、ロービームバルブが取り付け位置（以下「ソケット」という。）から外れていた（写真12、13参照）。

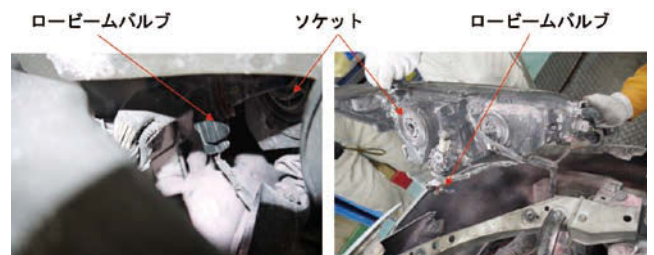


写真12（左）エンジンルーム内から見た助手席側前照灯  
写真13（右）車体から取り出した助手席側前照灯ユニット

ロービームのソケット部分を同型車と比較して見分すると、ソケット部分の樹脂が一部溶融しているのが認められる（写真14、15参照）。